

【道端の自然】

～ 冬の宝石 ～

もう美しいものは何もなくなったかのように見える冬の野山。でもふっと視線を下げると・・・意外にも輝く宝石をそこそこに見つけることができます。

まだ緑の葉の残るジャノヒゲの下には、青いつやつやした実が。フェルメールの青です！小さなヤブコウジも、葉の下に真っ赤なかわいい実をいっぱい隠しています。もちろん、人間に見つからないように・・・ではありません。鳥に見つからないように、というか、簡単に見つけられないように、です。鳥に食べてもらって、種を運んでもらいたい植物たちです。でも、おいしい、おいしいと全部食べつくされては迷惑。

そこで、あそこに、ここに、と隠しておいて鳥たちと知恵比べをしているのでしょう。そうそう、ピラカンサの実とか、結構目立つものもありますね。あれ

キチジョウソウ



ジャノヒゲ

は、一説によると、まずくてあまり食べたがらないようにして、少しずつ食べてもらっているそうですよ。

草の実というと、林明子さんの『きょうはなんのひ？』（福音館書店）を思い出します。散々探し回った後のプレゼント。折り紙の箱の中には赤いナンテンの実と青いジャノヒゲの実が入っていました。「赤いルビーは

おかあさん、青いサファイヤおとうさん」まみこちゃんからの素敵なプレゼントでした。

みなさんも、冬の日差しの中で野原の宝探しを試みませんか？

(小川)



ヤブコウジ